

## 平成 31 年度を振り返って

令和も 2 年目に入りました。

うきうきした気分もすっかり収まり、看護部は課題達成のために目まぐるしく活動しています。

さて、もう 1 年を振り返る時期になりました。三つの出来事について振り返ってみます。

一つ目は、「働き方改革」として育児短時間制度の夜勤導入の見直しです。「働き方改革」は、働く者の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く方一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指すものです。子育て真最中のお母さんたちが安心して夜勤が出来るよう対象児が 2 歳未満の場合は夜勤導入を任意としました。また、保育室も今までは週 1 回のお預かりだったのを 2 回に増やしました。ぜひ利用していただき、少しでも夜勤をするお母さんの負担を軽減してほしいと思います。

二つ目は、離職率の大幅な低下です。平成 30 年度看護師離職率 6.68%から 31 年度は 5.66%にまで低下しました。これは、ストレスチェックに基づき各所属長と、メンタルヘルス部会やキャリア支援室が協力し、個人に、職場に丁寧に対応していただいた結果です。待つことの困難さは痛感していますが、立ち直られた時の喜びには代えがたいものがあります。皆さんの努力に感謝いたします。

三つめは、COVID-19 対応に看護部のみならず、機構職員全員が奔走したことです。(現在終息の見通しは尽きませんが) 予定していた大きな研修会などは軒並み中止となりました。舟入市民病院では第 2 種受け入れ病院としてスタッフの皆さんが多大な役割を果たされています。当院でも 24 時間救急受け入れ病院として、今何が支援できるのか協議しました。全世界で「命を守る行動」が問われています。

このように時代は変わり続け、次なる対応が求められます。しかし、私たち看護専門職はその時代に柔軟に対応して行くと同時に、変わらない大切なものも伝えていなくてはなりません。

私は 3 月 31 日定年を迎え、広島市民病院での 40 年間の看護師生活を終えました。「やさしさと思いやり」の理念に包まれ職場を去ることが出来るのは大変幸せなことでした。

今後の広島市民病院看護部のますますのご活躍をお祈りしています。

みなさん、お元気で！



広島市立広島市民病院  
副院長(事) 看護部長 南波 玉喜